



『(立場別・ステージ別) ストック・オプションの活用と実務』

山本成男【編著】

A 5判 384頁 定価：3,780円(税込)

中央経済社刊

「ストック・オプション等に関する会計基準」が公表され、ストック・オプションの費用化が義務づけられてから3年余りが経過した。この間、さまざまな解説書が世に問われ、書面で得られる情報も随分とリッチになってきた感がある。世間が初めてストック・オプションという言葉を目にした時代に比べれば、今やストック・オプションもよい意味で普通の報酬制度の一選択肢になった。

小職は、人事・組織と財務リスク双方のマネジメントにつき、日頃さまざまな案件に関わっているが、ストック・オプションに関する課題に接することも日常茶飯事だ。企業の経営戦略を人事戦略に読み解き、その中で総報酬戦略を練り、ストック・オプションを含む各種個別施策へと落としこむ。ストック・オプションは、ある種の大衆化の歴史を経て、最近では企業ごとに非常に個別性の高い文脈での検討が求められるようになった。

そうしたなかで、本書の立ち位置には著者の慧眼を感じずにいられない。制度を熟知する知識提供者の視点ではなく、企業の類型やオケージョンの文脈にまで踏み込んで書かれた、いうなればサービス業の温かさを感じさせる1冊だ。小職は日頃から、プロフェッショナル・ファームとは、常人離れた専門性をあくまでもサービス業として提供する、いうなれば人助け業であるとの思いを持っている。この本を手にしたとき、寄って立つ分野は違えども、同じような心意気や品質感のようなものをイメージした。

もちろん、実務書としてのレベル感も十分に担保されている。会計上の評価額への影響や税務面への配慮など、実務面での要点が詳細に解説されている。費用化が義務づけられて以降の他の会計基準や税制改正の動向にも触れ、今後のストック・オプションに求められるニーズを探ってゆく過程は秀逸だ。また、報酬制度としてストック・オプションに求められるさまざまなニーズを制度に反映してゆく際には、会計上必要となる公正価値に与える影響を把握することが必須である。公正価値の評価方法についても、平易さを心がけつつ具体的な解説が試みられており、表計算ソフトを使用した算定過程の例示なども利便性が高いといえよう。

今から将来の改訂版が楽しみな1冊であり、今後盛り込んで頂きたい点もいくつかある。日系企業の最大の経営上の関心事のひとつがグローバル人材マネジメントであり、特にM&Aの場面では海外主要地域での報酬制度の目利きや再設計のニーズが高い。ストック・オプションに関する難度の高い問題解決も、今後一層増えていくだろう。また、公正価値の算出にあたっては、ブラック・ショールズとモンテカルロ・シミュレーション以外にも2項モデルが活用されており、その実用性は高い。地理的な広がりや評価方法の広がりなど、本書のカバーする文脈がさらに深く広がっていくことを楽しみにしている。

古森 剛 (マーサージャパン株式会社 代表取締役社長)

旬刊経理情報 No.1233 2009.12.1 掲載